

西南学院大学

「心」と「知」で学ぶ国際法 課題に寄り添い解決する人材育成へ



入国管理・難民保護の現場に関わる専門家と対話して、問題の本質に迫る学習を心がける

大学からのメッセージ

大学からの特集

西南学院大学は、「心」と「知」を両輪とした教育で国際感覚を備え語学力に秀でた学生を輩出している。知性とともにも豊かな感性を育む教育の代表例が、法学部が主導する全学的教育支援プログラムである国際法教育プロジェクト「KARDIANOIA（カルディアノイア）」だ。国際の狭間に置かれた人々に寄り添うことのできる若者を育てるユニークな試みを紹介する。

全学的プログラム「KARDIANOIA」

KARDIANOIAは、ギリシャ語で「知」を意味するDIANOIAの前に、「心」の意味のKARDIAを付けた造語。法学部の根岸陽太准教授の指導で、模擬戦争、模擬裁判のゼミ活動に加え全学公募による模擬入管、模擬外交の四つの活動をしている。

模擬入管は、入国管理・難民問題を実践的に問い直すことを目標として2019年度に始まった。長崎県大村市の入国管理センターを訪問、被収容者と面談して彼らに「寄り添う」心構えを学び、国際法に照らした日本の現状と課題、改善すべき点などを議論し発表する。全学の1～4年生から参加、九州一円の高校生もオンラインなどで発表を聞いた。

プログラムは「救う」側の活動や考え方だけではなく、「救われる」側がどのような痛みを感じているのかを常に汲み取ることが求めている。剥き出しの生の現場を経験し心と知を尽くして寄り添ったうえで、彼らが本当に救われるためには何が必要か、道筋を考えさせている。

19年度の発表では、実際に被収容者から聞き取った生の声を題材に、学生が被収容者役になりきるシミュレーションを開発し、収容された経緯や日本の問題点を参加者と質疑応答した。昨年度はコロナ禍のため被収容者と面談できず、彼らと面会活動に従事している行政書士や牧師に話を聞き、福岡難民弁護団の弁護士、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の職務経験者などからも指導を受けるなど、知恵を絞って入国管理・難民問題の現状を考えた。



法学部
根岸 陽太准教授

救われる側の気持ち知る感性と知性を駆使

プログラムのきっかけは、根岸准教授がゼミで当初実施していた模擬裁判の経験から、人を救う側に立ち法律を能動的に駆使する「知性」以前に、救われる側の気持ちを受動的に汲み取る「感性」を育むことが欠かせないと確信したことだった。

「知識や思考力などを鋭利に磨いても、正当な目的がなければ単なる暴力。誰の何のために武器を振るうのか。学生が常に感性を働かせながら知性を活かせるよう心がけている」と話す。

学後に加わるという流れも出てきた。世代を超えて経験を連綿と引き継ぐ素地ができつつある。

「感じる」「知る」経験ができた今、根岸准教授は、今後は「寄り添う」経験を第三者に「伝える」ことが課題だと話す。センシティブな問題を内包する入国管理・難民に関する情報を、どのように当事者の不利益にならないよう発信して社会の関心を高め改善に結びつけるのか。

根岸准教授は「入国管理・難民問題に限らず社会一般でも、成功の陰には必ず犠牲者がいる。そこを理解し、寄り添う、解決しようとする人材を育てたい」と話している。



入管センターでの面会を再現した体験シミュレーションを作成して、高校生に体験してもらう

KARDIANOIAを受講した学生たちは何を感じ学んだのか。

井上凜太郎さん（法学部国際関係法学科4年）、喜安花央里さん（人間科学部心理学科4年）、矢嶋優奈さん（文学部外国語学科仏語専攻〔現：外国語学部外国語学科〕3年）に聞いた。（個別取材を再構成した）

井上: 高校時代のボランティア経験から、救われる側に立たないとダメだと感じていました。入国管理センターでは仕切り越しの面談で、同じ人間が別世界にいるようでショックを受けました。発表ではこの時の話をもとに私が被收容者役をやりました。

喜安: 心理学でも心の問題を扱っているので、法学とは別のアプローチもできるのではと思いました。昨年度は制度的な問題を扱う「マクロ」と被收容者の扱いを考える「ミクロ」の2チームで取り組みました。外国人への向き合い方には、歴史的経緯や国民性なども絡んで、簡単な問題ではないと感じました。

矢嶋: ネパールで一方的な支援活動をした苦い経験、フィリピンでは経済協力に対する良い対日感情に触れていましたが、入国管理・難民問題での日本の取り組みとの違いを感じました。コロナ禍を理由に活動を滞らせたくない、この仲間たちとならだれかの心にこの気持ちを届けられると思いました。

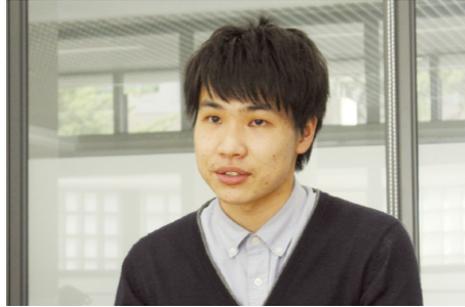
井上: 人ひとりを救うのは簡単なことではないと身にしみました。救う側に焦点が当たりがちですが、裏に回るとまるで違う。寄り添うことを忘れては絶対にいけません。戦争の現場で状況の改善にかかわってみたいと思います。

喜安: コロナ禍での活動を通じて、自分たちができることを堅実にやるのが大切だと思いました。専門家や先輩たちの経

にもなりつることを忘れくはいけない」という言葉が鮮烈に残つくいま。谷子部から参加者がいるので、多様なものの見方も学びました。人の意見を聞き、最後は自分の目で見えて判断する。また外国で活動したいです。



文学部外国語学科
仏語専攻(現:外国語学部)3年
矢嶋 優奈さん



法学部国際関係法学科4年
井上 凜太郎さん



人間科学部心理学科4年
喜安 花央里さん

トピックス

7学部12学科を擁する文科系・社会系の総合大学 語学と全人格教育を重視した国際色豊かな教育を展開

国際的なコミュニケーション能力を身に付けることは現代を生きるための最重要テーマの一つであるといえます。キャンパスの雰囲気も伝統的に国際色豊かで、国際感覚を養うにはまさに最適の教育環境となっています。各学部のカリキュラムにおいても国際化に対応した科目が多数開講されています。特に語学教育に関しては「語学の西南」と称されるほどの高い評価を得ており、4年間を通じて開講される豊富な語学授業に加え優秀な指導スタッフ、最新機器を完備した言語教育センターなど、高度な語学力を養成するための万全の態勢が整備されています。本学の伝統であるキリスト教主義に基づく全人格的教育は、人と人のあるべき関係を考え、国際人としての教養を磨くうえでも大きな役割を果たしています。



大学 HP はこちら



大学一覽

関東

近畿

九州



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

關西外大
KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

宇部フロンティア大学



拓殖大学
Takushoku University



大阪芸術大学



鹿児島大学



玉川大学
Tamagawa University



大志を、まとう。

大和大学
Yamato University



九州大学



東京国際大学
TOKYO INTERNATIONAL UNIVERSITY



天理大学



九州国際大学



帝塚山大学
TEZUKAYAMA UNIVERSITY



九州産業大学



神戸学院大学



九州保健福祉大学



熊本大学



西南学院大学



崇城大学



長崎大学



長崎国際大学



西日本工業大学



福岡歯科大学

Copyright (C) The Yomiuri Shimbun.

広告 企画・制作・読売新聞社広告局

無断転載を禁止します

読売新聞オンラインに掲載している記事や写真などは、日本の著作権法や国際条約などで保護されています。読売新聞社など著作権者の承諾を得ずに、転載、インターネット送信などの方法で利用することはできません。

「読売新聞オンライン」の偽サイトにご注意ください。

アクセスデータの収集と利用について